

- 福岡県は、全国第6位のブドウ生産県であるが、「巨峰」が栽培面積の70%を占め、**品種構成のアンバランスが課題**。
- このため普及指導センターでは、新たな品種として「**シャインマスカット**」の導入を提案するとともに、栽培マニュアル作成等の技術支援を通じ、**高品質果実の生産を実現**。
- その結果、「**シャインマスカット**」は栽培面積が倍増し、**販売額は7億円を超える**等、産地収益力が向上し、農家経営が大幅に改善。

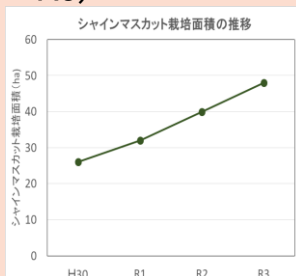
## 具体的な成果

## 普及指導員の活動

### 1 栽培面積の増加

■「巨峰」からの改植が進み、わずか3年で栽培面積が急増(H30→R3)

- ・栽培面積  
26ha → 48ha
- ・栽培面積の増加率  
185%(H30比)



### 2 栽培マニュアルの作成

■福岡県内の気象・栽培条件に対応した**栽培マニュアル**を作成し、高品質果実生産が実現

→市場評価の向上



適正な新梢密度

福岡「シャインマスカット」栽培マニュアル (Ver. 2)



令和3年3月

福岡県園芸振興推進協議会ぶどう専門委員会

### 3 高単価の実現、販売金額の増加

■果実の品質向上により、販売単価が上昇し、販売金額が大幅に増加

→ブドウ全体の販売金額の26%

- ・販売単価: H30年 1,533円/kg  
→R2年 1,806円/kg(18%高)
- ・販売金額: H30年 4.0億円  
→R2年 7.3億円(84%増)

令和元年

■新品種の導入を検討する中で、「シャインマスカット」を果樹経営の**基幹品種**に選定し、県域で**特に栽培面積の拡大を図る品種**に設定。

令和元~2年

■収量や棚面の明るさと果実品質の関係を明らかにし、**適正な着房数や果房重及び新梢密度**を明らかにした。また、適期収穫のためのカラーチャートを作成し、収穫時期のばらつきをなくして**果実品質の高位平準化**を図った。

令和2年

■市場関係者と意見交換を通じて、消費者ニーズに合致した**品質重視の房づくり**を推奨し、主産地とすみわけをできる生産、販売体制づくりを推進。

## 普及指導員だからできたこと

・専門技術を有し、試験研究機関との連携を図るとともに、他の関連機関と情報共有している普及指導員だからこそ、**新品種の導入を推進し、福岡県に適した栽培方法の確立が可能であった**。

・先進的農業者、JA、研究機関、県行政の関係者との交流を進め、多方面からの意見収集を通じて、新品種の導入及び高品質果実生産の必要性について合意形成が図られ、**関係機関一体となって、新品種の普及拡大を進めることができた**。

福岡県

## 「シャインマスカット」の普及拡大と品質安定の取組み

活動期間：令和元～2年度

### 1. 取組の背景

福岡県は、全国第6位のブドウ生産県であり、黒色大粒品種の「巨峰」が栽培面積の約70%を占めている。しかし、近年、黒色品種は、着色期の高温により果皮の着色不良が問題となっており、ブドウ農家の収益性の低下につながっている。

このため、普及指導センターでは、近年、消費者のニーズが高く着色の心配が不要な黄緑色品種の「シャインマスカット」の導入を検討した。

しかしながら、着果量、枝管理、植調剤の使用方法等の生産方法が県域で統一されておらず、先んじて導入されていた産地や生産者間で果実品質の格差が大きく、市場からも、果実品質のバラツキが大きいとの評価であった。

そこで、県内の「シャインマスカット」の栽培技術の高位平準化を図るため、現地実証による管理技術の検討やその結果を反映した栽培マニュアルの作成を進めるとともに、流通業者から出荷時期、商品形態、価格といった消費動向を収集することで、本県の「シャインマスカット」の生産、販売の方向性の統一とその実現を推進した。



図1 良食味品種  
「シャインマスカット」

### 2. 活動内容（詳細）

「生産体制・技術確立支援事業（令和元～2年度）」を活用し、普及指導員が中心となって、「シャインマスカット」の生産拡大と品質の安定化を推進した。

具体的には、植物調整剤の使用方法や高糖度を確保できる適正な着果量の実態を検証する現地展示ほの設置や、長野県や山梨県、岡山県等のブドウ主産県の生産実態調査を実施した。また、県内外の市場関係者との意見交換会を通じて、今後の「シャインマスカット」の販売、消費の展望や福岡県産の販売の方向性について意見交換を実施した。それらの取組結果をもとに、県の「シャインマスカット」栽培マニュアルを策定し各産地での指導に活用してもらうことで、「シャインマスカット」の普及拡大と果実の高品質化に取り組んだ。

#### ■令和元年度

- ・農業革新支援専門員を中心に、普及指導センター、農林業総合試験場、福岡県内の農業協同組合および全国農業協同組合連合会福岡県本部（JA全農ふくれん）によるプロジェクトチームを結成した。
- ・県内に3か所の現地実証ほを設置し、植物調整剤を利用した適正な枝管理方法や果実品質の向上技術の検証等を実施し、棚面を適正に管理し、

果実品質が向上する栽培管理方法を明らかにした。

- ・ 県外調査として、長野県と岡山県を訪問し、栽培技術の研究や産地化の取組み、新規参入の受け入れ体制について視察するとともに、市場担当者との今後のブドウの販売動向について意見交換を行い、福岡県内における振興方向を検討した。

#### ■ 令和2年度

- ・ 令和元年度に引き続き、県内に5か所の現地実証ほを設置し、各地域の代表的な園地の生産実態調査を詳細に調査し、着果量や果房の大きさの違いが果実品質に及ぼす影響を明らかにした。
- ・ 県外調査として、山梨県を訪問し、栽培技術や品種開発の研究やスマート農業技術の開発、導入状況、大規模果樹農家の経営実態について視察し、福岡県における振興方向を検討した。
- ・ 県内の市場担当者と福岡の「シャインマスカット」の位置づけや販売方針について意見交換を行い、消費者ニーズに合致した食味重視の小房づくりや福岡県に適した出荷荷姿を明らかにした。



図2 県外先進地調査



図3 県内市場との意見交換

### 3. 具体的な成果（詳細）

- ・ 「シャインマスカット」の栽培面積が、わずか3年で、26ha（H30）から48ha（R3）に急増した。
- ・ 2カ年の取組み結果に基づき、県域の栽培マニュアルを策定した。栽培マニュアルにより県統一の技術体系が確立し、産地間の品質格差が減少し、販売価格が向上した（1,533円/kg：H30年→1,806円/kg：R2年）。また、販売金額は、4.0億円（H30）から7億3千万円（R2）まで拡大した。
- ・ 現地実証やマニュアル策定を通じて、関係機関が連携して、同じ方向を向いてブドウ振興に取り組む雰囲気づくりが醸成された。

福岡「シャインマスカット」栽培マニュアル  
(Ver.2)



令和3年3月  
福岡県果実振興推進協議会ぶどう専門委員会

図4 栽培技術マニュアル

#### 4. 農家等からの評価・コメント（八女市溝田氏：ブドウ部会長）

福岡県の「シャインマスカット」は産地間の品質格差が課題でした。このような取り組みを行うことは産地間の品質格差の是正と産地のレベルアップにつながる良いことである。今後も普及指導センターを始めとした関係機関が連携して、福岡の「シャインマスカット」の品質や評価を高める取り組みを継続していただきたい。

#### 5. 普及指導員のコメント（南筑後普及センター・主任技師・城野龍馬）

当管内では、「シャインマスカット」の適正な栽培管理基準がなかったことから、果実を多く着果させる傾向にあり、果実品質が劣り、産地評価が低い状況でした。そこで、令和元年より着果量の違いと果実品質の関係を明らかにするために実証ほを設置し、果実品質への影響を生産者とともに調査を行いました。その結果、着果過多が果実品質に及ぼす影響が顕著で、適正な房づくりや着果管理を行うことの重要性が生産者に認識され、品質重視の考え方に変わり、産地の評価も改善しました。

#### 6. 現状・今後の展開等

「巨峰」からの「シャインマスカット」への転換が進んでいる。高単価を背景に、今までブドウの生産が盛んではない地域でも植栽が進んでおり、作成したマニュアルの活用場面が更に広がっている。今後は、旧盆前は「巨峰」を中心に出荷、8月中旬以降は「シャインマスカット」を中心に出荷を行い、収穫調製労力の分散を図りながら、「シャインマスカット」を「巨峰」と並ぶ福岡県の代表する品種として推進を進めていく。